

## 松木日向緑地プログラム 松木日向緑地の竹林整備

単独実施

2021年10月31日（日）

### 報告



### プログラム単独での竹林整備

10月31日(日)、「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、都立大・南大沢キャンパス内にある松木日向緑地の竹林整備活動を行いました。

今回は、プログラム単独で取り組むという初めての試みだったため、事前にプログラムリーダーや副代表とミーティングを行いました。参加メンバーを確認したところ、間伐の経験がない、もしくは経験の少ないメンバーが複数名いたため、間伐開始前に伝えることなども確認し合った上で目標を決めました。

### 「しっかりと竹を切る」

今回の目標は「しっかりと竹を切る」こととしました。

当日は途中から雨が降り出すという状況での実施でしたが、生い茂る竹や樹木が大きな傘代わりとなり、あまり濡れることはありませんでした。しかし、この状態こそが「樹木の周りで日光を遮る」ことになっており、日向緑地の生態を考えると、決して良い状況ではありません。新型コロナウイルス感染症の影響で、竹を切ることができない期間が続いてきた現状を少しでも解消すべく、学生14名で竹の間伐に取り組みました。

開始前に、受け口、追い口の順番でのこぎり刃を入れていくことや、のこぎりを使っていないときは必ずケースにしまうことなど安全面も含め、基本的なことのレクチャーをプログラムリーダーから行いました。

### 今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

その上でまず、プログラムリーダーが竹を伐採し、切った竹がどの方向に倒れるかなど説明しました。その後3つのグループに分かれ、それぞれでエリアを決めて間伐を行いました。

参加したメンバーは、間伐方法や間伐の意義について確認する機会となり、間伐したことによって少しずつ明るくなる視界に、それぞれが思いを巡らせることができました。

プログラム単独実施としての目標も達成できました。

今回の活動の様子も本センターのYouTubeチャンネルで公開していますので、ぜひご覧ください。

### 活動の様子



準備運動も  
しっかり  
行いました

### 参加者の声

- ・竹1本1本がどれほどの影を作り出すのかが分かった。他の植物保護のためにどの竹を切っていくかについて、自分で考えながら切れるようにしていきたいと思った。
- ・ペアやグループの人と竹を切る場所や切り方を教え合いながらすることができた。竹を切った場所が明るくなってうれしかった。
- ・誰もケガすることなく、楽しく作業できたと思う。竹の倒れる場所が思い通りにならないこともあり、大変勉強になった。
- ・前回から期間が空いていたことから竹の切り方や気を付けるべきことをほとんど忘れてしまっていた。そのため、のこぎりを使う際には手を必ず離したり、自分の方に向けないように心がけることを再確認した。今回学んだことを生かして、安全面を徹底しつつ今後も竹の間伐をより効果的に進めていきたいと思う。



都立大ボラセン  
YouTubeチャンネル

当日の様子を公開中!

